

新庁舎整備事業市民説明会 2021
意見交換結果概要（11月30日全地区開催分）

○日 時 令和3年11月30日（火）午後7時～8時30分

○会 場 生涯学習センター404

○出席者 16人（参加市民）

○内 容

□【質問・意見・提案等】

⇒【回答】

□前回の説明会よりも相当改善されている。市民の声をよく聞いて改善していることを評価したい。

⇒出前講座等も活用しながら、さらに多くの市民の皆さんに十分ご理解いただけるように対応していきたい。

□加茂川の近くに住んでいるため、大規模な造成、埋め立てにより川の増水に影響がある前平に建設することは避けてほしい。災害時は前平にテント等で避難所を作ったらどうか。

□駅前は昔、自分が学生の頃はにぎわっていた。現在は閑散としているので、市庁舎が駅南の顔になることで昔のにぎわいを取り戻すことを期待している。

□現在の庁舎は手続きごとにたくさんの部署に移動しなくてはならない。新庁舎ではワンフロアに集約するような考えはあるのか。またアテンダント（案内人）を常駐させるような予定はあるのか。

⇒現庁舎では手狭であるため、ワンストップ、ワンフロアのサービス展開は困難であるが、新庁舎では導入を考えていきたい。アテンダントについても検討をしていきたい。

□出前講座で説明を聞いた時よりも良いものになっていた。どの候補地に建設しても、一長一短であり、駅前に建設することに賛成であるため、この計画通りに進めてほしい。

⇒4候補地を比較していく中で、どの候補地が100点満点だからそこを選ぶということではなく、相対的に評価した結果、駅前周辺が一番良いのではないかと説明している。

□駅周辺がイメージ図どおりににぎわうと思うとすごくワクワクする。駅前ににぎわいづくりにはハード整備のみでなくソフト整備も重要であるため、その面でも頑張ってもらいたい。

□良い職員を確保するためにも、働きやすく魅力ある市役所庁舎を建設してほしい。駅前に建設することで多方面から勤務でき、より良い職員を確保するこ

とができるメリットもあるのでは。

□職員は気を遣いすぎで頑張りすぎという印象がある。職員だけで頑張ろうとせず、市民に積極的に意見を聞く形をとってほしい。市民の意見を取り入れ、同意を得ながら、一緒に進めてほしい。

□美濃加茂市は中山道を中心として、人の流れによって栄えた街である。新庁舎等で美濃加茂に人の流れをつくって、川辺や坂祝、可児等の近隣自治体も巻き込んで大きな人の流れが生まれる地域になったら良いと思う。

□ほとんど市役所に行ったことがない。証明書等の取得は連絡所で事足りてしまう。これからはDX等で手続きのために市役所に行くことは少なくなる。その分まちづくりの仕事が市役所の仕事となるので、民間と連携して素晴らしい街をつくってほしい。前平では民間と連携したまちづくりはできないと思う。

⇒最近ではマイナンバーカードを利用すれば住民票などをコンビニで取得できるため、市役所に来庁することはますます減ると考えている。その分、職員は地域課題解決のために、市民に寄り添った仕事が主体となってくる。

□説明会資料の新庁舎のイメージ図を見ると、近未来的ではあるが無機質な感じがする。市の自然を活かした、小学校の机に市の木材（アベマキ）を使用したりしているというように、文化を活かしたまちづくりということでも、木材をふんだんに使った庁舎を建ててほしい。

⇒里山千年構想を推進する観点から、里山を活かした、木材を活かしたまちづくり、教育に取り組んでいる。地元産を中心とした木材を活用するという提案は素晴らしいと思う。今後、実施設計をしていく際に、木の活用についても検討していきたい。

□第5次総合計画でにぎわいのあるまちなかをつくるという目標でやってきたが、人口6万人、商店街の空き店舗数0件、駅前の自転車の通行量1330台という目標が達成できなかった。今までも駅南については税金を投入してきたので、さらに税金を駅南に投入する必要はない。駅南の再開発等は民間に任せればよい。

⇒第5次総合計画については毎年しっかり事業評価をしてきた。その結果を踏まえて第6次総合計画を策定したため、第6次総合計画をしっかり遂行していく。

□市の責任で駅前を再開発する必要はない。

ペDESTリアンデッキ等に無駄なお金は使うべきでない。税金は必要のあるものにのみ投入すべきである。例えば、市内西町の基幹道路は十分に整備され

ていないというように他地域の整備にお金を使うべきである。

新庁舎は前平につくるのが良い。

⇒新庁舎を前平につくるには、およそ16億円もの造成費が必要となる。大きな費用をかけると地域の道路整備に十分な予算を充てられないというようなことが起きる可能性がある。コストの面も比較して駅前が一番適していると考えている。

□防災拠点という観点で、新庁舎が浸水すると救助活動が行えないため、駅南の建設は反対である。

⇒救助活動については駅周辺のみでなく、機能を分散して市内の各地で活動することになる。救助活動の拠点として前平公園や牧野ふれあい広場を活用し、新庁舎においては防災対策本部の運営等の防災拠点の機能をしっかりと存続させていきたい。